

1. 目的

私たちはこれまでに阪神淡路大震災、東日本大震災等の甚大は災害をはじめ局地的な大小の災害を経験してきました。その中で私たち教会がどのように災害対応を通して地域に、被災者に仕えることができたか。試行錯誤の中からも目が開かれ多くの教訓を得てきました。教会がキリストのからだとして愛の業を現わし仕えるために今求められていることは、まず第一に各教会が災害支援を愛の奉仕のわざとして受けとめ仕えるようになること、第二に災害時にキリストの愛の業を行う災害対応チャプレンが各教会に養成されること、第三にキリストの体として協力して奉仕を行う災害対応教会ネットワークを構築することです。日本全国の教会が災害対応を通して仕える教会、キリストの愛を世にあらわす教会となることがこのプロジェクトの目的です。

2. 目標

- ①聖書の御言から災害支援の理念と神学を学び、隣人を愛し仕える事を御心として受けとめる。
- ②これまでの経験から得た大切な教訓を学ぶ。
- ③災害対応チャプレンの養成を行う。全国の教会に災害支援に重荷をもち訓練を受けた者が起こされ、教会の大切な奉仕の一つとして災害支援の備えをする。養成のための学びや訓練のプログラムを整え、継続的な交わりと情報交換のためのホームページを運営する。
- ④災害対応教会ネットワークを構築する。各地域の教会がネットワークを作り交わりの中で災害に備える。災害時に共に仕えあい、協力して支援活動を行う事が出来る態勢を整える。地域ネットワーク同士の連絡体制をとり広域ネットワークによる協力態勢を作る。ネットワークの情報交換、支援態勢、活動報告などのためのホームページを運営する。

3. 方法・手段

- ①現在 DRCnet (災害救援キリスト者連絡会) のもとで実施されている、東日本大震災国際神学シンポジウム、災害対応チャプレンと教会防災ネットワークの活動を引き継ぎ、JCE6 の機会に全国展開する。
東日本大震災国際神学シンポジウムはこれまでに 3 回開催され、災害と支援、宣教についての神学的な学びが深められている。
災害対応チャプレンは首都圏を中心にこれまで 2 回のセミナーが行われチャプレンが養成されている。また継続的に毎月の学び会がもたれている。
教会防災ネットワークは首都圏を中心にすでに各地にネットワークが生み出されている。東日本や東海にはすでに災害に対応した教会ネットワークがあり、それらから学び連携も進める。
DRCnet では今のところ首都圏を中心にした活動となっている。JCE6 で全国にこの活動を展開する。
- ②2016.9 ワークショップ
 - ・阪神淡路大震災の被災地である神戸において、災害経験を通過しての証を聞き災害支援の必要性を理解する。
 - ・災害支援の正しい理念と神学を学び、参加者がそれぞれの教会の奉仕のわざとして受けとめる。
 - ・災害対応チャプレンの働きの概要を学び、コイノニアで心のケアの実習、分かち合いを行う。
 - ・災害対応教会ネットワークの概要を学び、先行事例の紹介、始め方を学ぶ。支援団体を紹介する。コイノニアにおいて地域教会ネットワークの実習をする。
 - ・参加者に登録をしてもらい、教会ネットワーク、チャプレンのネットワークに加入して継続的に進められるよう支援をする。
 - ・災害対応のためのツールやテキストを用意し、参加者がそれを利用してそれぞれの教会で実行に移す事が出来るように支援する。
- ③教団、地域牧師会、宣教協力団体、各教会への災害対応のアピールと協力要請を行う。
- ④災害対応教会ネットワークの現在の数、災害対応チャプレンの現状の人数を確認し、登録する。
- ⑤プロジェクトの継続
 - DRCnet・援助協力委員会が、プロジェクトの働きを引き継ぐ。
 - ・1年ごとに新たに生れた災害対応教会ネットワーク、災害対応チャプレンを確認し状況を把握し登録する。
 - ・参加者へのフォロー、情報交換、全国への展開を進める。
 - ・チャプレンセミナーや学び会などの訓練の機会、広域の教会ネットワークミーティングなどの関係造りの機会を作る。
- ⑥評価・検証
 - 毎年9月に援助協力委員会において、以下の項目を調査し、評価・検証を行う。
 - ・ネットワーク・チャプレンの増加数、地域分布、活動状況
 - ・災害発生時のネットワーク・チャプレンの活動
- ⑦2023.9 JCE7 成果の公表と引き続き全国展開と協力態勢の強化を進める。